魅者曲馬團第四回公演

Call Me Glitter

脚本・演出　くぼかわひより

アンナ	貧しい少女　赤
シロ	ボーイ　白
ユーリ	ダンサー　水色
シンシア	オーナー　銀
ソフィ	ダンサー　青
カミラ	ダンサー　紫
ロゼ	ダンサー　ピンク
ジョー	ボーイ　深緑
アダム	常連客　緑
ヴィクター	保安官　黒
ソゥ	保安官　オレンジ
ルーア	保安官　黄色
ママ	考え中

M 緑で表示

キーワード
キャバレー　クラブ
華やかな世界で生きていく
それぞれの葛藤、悩み
恋愛　偶像崇拝
自分ではないものへの憧れ
違う自分になりたい
アンナとユーリ　の友情
ミュージカル
マッチ売りの少女
歌舞伎町　ホスト

《scene0　prologue》

明転。全員板付き。
ユーリ中央。他はユーリを取り囲むように。
各々布を纏っている。
アンナは後ろ。頭巾をかぶっている。

ソフィ　紅い太陽沈む頃
ジョー　街には明かりが灯り出す
ルーア　一等星も見えない程に
ロゼ　輝くネオンと恋の街
カミラ　光の中から聞こえてくるは
ソゥ　幼さ残る甘い声
ヴィクター　それに応える男はまるで
アダム　叶わぬ愛を夢見る少年
全員　永遠の淋しさを忘れるために
シンシア　一瞬の安心を求め
全員　命の温もりを感じるために
シロ　一晩の優しさを求め
全員　名も知らぬあなたを抱きしめる
ユーリ　囁く愛は、暗く、黒く。
全員　ユーリ
ソフィ　もうすぐ時間だよ
ロゼ　お客様がお待ちだよ
全員　早く、早く！
ユーリ　掴みたかった
ジョー　永遠の煌めきは
カミラ　泡となって消えていく
ユーリ　撫でて欲しかった
ルーア　届かない指先は
ヴィクター　儚い夢のまた夢
ユーリ　だから私は叫んだ
アダム　輝きを失った瞳には
ソゥ　もう二度と空の青は映らない
ユーリ　あの日の母の顔はまだ鮮明に思い出せるのに
シロ　それでも僕らは信じ続ける
シンシア　赤い光は、幸せの証なんだと
全員　ユーリ
ユーリ　・・・希望の光は、いつまでも見えない。

☆M1 OP『Le destin et les filles』　ユーリ、アンナ

シンシア、来る。

シンシア　　・・・ユーリ

ユーリ、シンシアに連れられて去る。

アンナ残る。

《scene1　繁華街》

アンナ、頭巾を脱ぐ。

アンナ　　私アンナ！現代には似合わぬマッチという過去の遺物を街ゆく人々に売って日銭を稼いでいる美少女！チャームポイントはこの美しすぎる美貌！毎日鏡を見て、自分の美しさについついうっとりして時間を忘れちゃうことも しばしば。はあ、美しさって罪よね・・・じゃなくて、マッチ！マッチ売らなきゃ。

アンナ、頭巾を被り直す。

アンナ　　・・・そこのお兄さん、マッチは要りませんか？え？いらない？ま、そりゃそうですよねえ。・・・え？なんでマッチなんか売ってるのかって？よくある話ですよ。酒浸りの暴力親父と貧しい二人暮らしをしている可哀想な美少女なんです、私！今時マッチなんて売れるわけが無いし、売れたって収入は雀の涙。その涙さえも父親の酒代に消えていく。健康的な生活もできない、まともな服も着させてもらえない。父の顔色を窺って、毎日暴力に怯える生活！あー！私可哀想！可哀想すぎる！こんな美少女なのに！超可哀想！

シロ、出てくる。アンナの様子を眺めている。

アンナ　　・・・だから、ね？マッチ、買ってくださらない？・・・だめ？あ、そう。それじゃあ・・・え、もういい？あ、ちょっと！待ってよ！・・・あーあ、行っちゃった・・・

アンナ、マッチを売るのを諦め、地べたに座る。

アンナ　　ライターとかチャッカマンとかあるんだからマッチなんて売れるわけねーじゃん。あのクソ親父、もっと売れるもん寄越せや。マーケティングが間違ってんだよ。もっとビジネス勉強してこいや。・・・あーあ、もうマッチ売

りの少女とかやってらんないよ。どっかに給料高くて派手で楽しくてこの美しい美貌が活かせる仕事、ないかなー。

シロ　お姉さーん、何してんの？

アンナ　え？うわ、イケメン。イケメンが近づいてきた

シロ　こんなところで座り込んでたら、風邪ひいちゃうよ

アンナ　風邪ひいたっていいもん。寧ろ風邪ひいちゃおっかな。風邪ひいたら、こんなん売らなくて済むし

シロ　何それ？

アンナ　マッチ。あ、お兄さんマッチ買ってよ。可哀想な私のために

シロ　マッチなんてこのご時世、売れる？

アンナ　全然。

シロ　まあ、俺もいらないしな。マッチなんて久々に見た。

アンナ　買ってくれないの？

シロ　うん。

アンナ　なんだ。じゃあどっかいってよ。仕事の邪魔。

シロ　マッチは買ってあげられないけど、もっといいもの、あげようか？

アンナ　は？

シロ　お姉さん、お金欲しいんでしょ

アンナ　うん！

シロ　じゃあ、お仕事、あげるよ。

アンナ　仕事？

シロ　そ。給料高くて、派手で、楽しくて、お姉さんの美貌が活かせる仕事。

アンナ　まじで！あ、でも、なんか怪しいな・・・

シロ　怪しくない。大丈夫大丈夫。

アンナ　死んだおばあちゃんが言ってたわ。イケメンがおいしい話を持ってくる時は、怪しいビジネスかよくない宗教か言えない仕事の勧誘だって！

シロ　違うって

アンナ　ていうかそもそも私、あなたの名前も聞いてないわ。知らない人についてっちゃダメって学校で習ったし、それじゃ！さよなら！

シロ　あー待って待って。自己紹介するから。俺の名前はシロ。趣味は読書

アンナ　シロ？本名？変な名前

シロ　本名なわけないだろ。あだ名というか、通称というか？

アンナ　ていうか読書が趣味？ダウト

シロ　なんでだよ

アンナ　アホそうなイケメンだから

シロ　失礼すぎ！アホじゃない！

アンナ　え？そうなの？じゃあ問題出していい？

シロ　いいよ

アンナ　（何か問題を出す）

シロ　（回答する）

アンナ　（正解or不正解。やっぱバカじゃんとか）
シロ　いいんだよ俺のことはもう。お姉さんの名前は？俺もお姉さんの名前、聞いてないんだけど
アンナ　アンナ
シロ　本名？
アンナ　ええ。もちろん。フルネームも聞きたい？
シロ　え、いいよ
アンナ　いいの？
シロ　いいよ。趣味は？
アンナ　鏡集め
シロ　何それ
アンナ　いろんな鏡を集めるのよ。集めて、じーっと眺めるの
シロ　それ、楽しい？
アンナ　楽しいわよ。だって覗き込むたびに絶世の美女が映るんだから
シロ　は？どういうこと？
アンナ　え、だから、鏡をこうやって見るでしょ。そしたら、絶世の美女が映るでしょ。はい。そういうこと。
シロ　（アンナを指差して）絶世の美女？
アンナ　うん！
シロ　・・・まあ、じゃあ、お互いのことを知れたってことで、俺は、アンナちゃんからしたらもう知らない人じゃないよね？
アンナ　え、うーん、まあ？
シロ　じゃあ、俺についてきても大丈夫ってことじゃん？
アンナ　そうなのかな・・・？
シロ　あ、あとお仕事、住み込み3食綺麗な洋服付き
アンナ　行きます！
シロ　はい、決まり

シロ、アンナの手をとる。

アンナ　こうして私は、マッチ売りの少女をやめて、全身真っ白なイケメンについて行くことにしました。たとえもしこの白イケメンが悪いやつで、一生浮かび上がることの出来ない深い深い水の底に沈められたとしても。
シロ　あの、モノローグ全部聞こえてますよ
アンナ　顔がいいから許せてしまうのでした。ああ、イケメンって罪深い。でも、美少女はもっと罪深いの。傾国の美女だから、私
シロ　もうやだちょっと人選ミスったかも
アンナ　まあ、とにかく！私はこれから華々しい人生を送るのよ！・・・え？パパ？パパには、後で手紙でも書いて出せば良いわ！さ、行きましょ！

シロ、アンナ、去る。

《scene2　Ruby》

☆M2『タイトル未定』ユーリ、カミラ、ロゼ、ソフィ、ジョー客としてアダム混ぜたいな。演出に。

営業終了。

曲終了と同時に、ジョーが倒れ込む。ギャグっぽく。それ以外ははける。

しばらくして、ロゼ、ソフィが来る。気づいて、そばでしゃがんでじーっと見ている。

カミラ、フラフラしながら来る。

カミラ　・・・何してんの？

ロゼ　観察

カミラ　・・・なんの？

ソフィ　働きアリ

カミラ　え、アリ？うーわちょっと、どっから入り込んだんだ

ロゼ　違うよ。女王様に毎晩こき使われてる方のアリだよ

ソフィ　そうそう。毎晩ホールでこき使われて、昼間も休む暇なく掃除、洗濯、炊事に女王のご機嫌取り。

カミラ　ああ、なんだ、そっちのアリさんか・・・。

ロゼ　シロちゃんもなんだかんだ上手くサボるからなあ

カミラ　あいつは隙あらばどっか行くからな

ソフィ　一人でホールを駆け回って、一人で片付けして。可哀想に

カミラ　だからこんなところでぶっ倒れるんだよ。一滴も飲んでないのに

ロゼ　突っついてみたら起きるかな

ソフィ　多分？

ロゼ、ジョーを突っつく。起きない。

ロゼ　起きないねえ

ソフィ　ジョー！起きて！風邪引くわよ！

ソフィ、ジョーを揺らす。起きない。

カミラ　・・・仕方ない

カミラ、ジョーに近づく。

カミラ　（耳元で）あ！シンシアさんだ！おはようございます！

ジョー、飛び起きる。

ジョー　おはようございます！・・・あれ？
ソフィ　おお、すごい
カミラ　覚えときな。これで一発だから
ロゼ　うん！観察日記に書いとこっと
ジョー　あ、騙したな！カミラさんひどい！
カミラ　お前がこんなところで寝てるからだろ
ジョー　仕方ないじゃないですか！今日の営業、ここ1ヶ月で一番酷かったんですから。もうヘトヘトですよ・・・特にソフィさん！もうあんな飲み方はやめてくださいね！
ソフィ　仕方ないでしょ？飲め飲めって客がうるさいんだから
ジョー　高いお酒が入るのは良いことですけど、そのお酒を一気して空の酒瓶を振り回してハンマー投げをされるのは困ります！
ソフィ　そんなことしたかしら？
ジョー　しかも僕の顔スレスレのところ！ほんと怖かったんですから！
ソフィ　怪我しなくて良かったわね。ラッキーボーイ
ジョー　酒瓶は壁にぶつかって粉々でしたけどね！
ロゼ　ジョーは粉々にならなくて良かったね！
ジョー　体は無事でも心は粉々ですよ！
カミラ　ちょっとはベッドで寝ろよ
ジョー　そうしたいのは山々ですけど、仕事が立て込んでるんですよ
カミラ　シロにやらせろよ。お前の部下じゃん
ロゼ　でも、今日の営業中、フロアにいなかったよね？
ジョー　そうなんですよ！探したんですけど見つからなくて・・・一体どこに行ったのやら・・・
ソフィ　もう全部サボって寝ちゃえば？
ジョー　サボったら命がないので
カミラ　それはそう

シロ、アンナを連れて帰ってくる。

シロ　ただいま
ジョー　あ！どこ行ってたんですか！もう営業終了してますよ！あなたがいないから僕が二人分働いたんですからね！
シロ　あー、ごめんごめん
ジョー　ごめんじゃないです！せめて片付けは手伝ってもらいますからね！
ロゼ　あれ？後ろの子、誰？
カミラ　もしかしてナンパしてきた？
シロ　は？ちげえよ

ロゼ　　え！シロちゃん！そんな子だったの！
ソフィ　　シロも隅におけないわね
カミラ　　ダメだよ、こいつイケメンだけど結構悪い奴だからやめときな？
シロ　　だから違うっていってんだろ。こいつ、仕事探してるっていうから連れてきたんだよ
ソフィ　　え！？シロが！？
シロ　　そう。だから今からオーナーのところにご挨拶に行くところってワケ
ロゼ　　え！新人さん！？やったー！私ロゼ！よろしくね！

ロゼ、カミラ、ソフィ、アンナを囲んでワイワイやいのやいの。
自由に可愛がってください。

シロ　　もう良いだろ、じゃ、そゆことで
ジョー　　あ！ちょっと！

シロ、アンナを連れてシンシアの部屋へ去る。

ジョー　　・・・お片付け、は？
ソフィ　　ジョー、ドンマイ
カミラ　　頑張れ、応援してる
ロゼ　　いつかシロちゃんに勝てる日が来るといいね！
ジョー　　・・・うう、いってきます・・・

ジョー、片付けのために去る。
カミラ、ロゼ、ソフィ去る。

《scene 3　Ruby 店内》

ユーリ、来る。座って楽譜チェックをしている。
シンシア、来る。

シンシア　　ユーリ
ユーリ　　・・・お疲れ様です
シンシア　　・・・勉強熱心なのね
ユーリ　　・・・いえ、そんなことは
シンシア　　でも、ちょっと笑顔と愛想が足りないかしら

シンシア、ユーリの口角を指で上げる。

ユーリ　　・・・やめてください

シンシア　せっかく素敵なお顔なんだから、笑わないと損よ。あ、でもあなたのそのつんとしたところがいいっていうお客さんもいるのよね。あーあ、若いって羨ましい！

ユーリ　・・・オーナーだって、いつも綺麗で素敵ですよ

シンシア　あら、嬉しいこと言ってくれるじゃない、もう！

ヴィクター、ルーア、ソゥ、来る。

ヴィクター　どうも、こんばんは

シンシア　・・・何しにきたのよ

ヴィクター　久しぶりに会いにきたのに、そんなに嫌そうな顔しないでください

シンシア　もう今日は営業終了なの。帰って

ヴィクター　酷いなあ

シンシア　部下を二人も引き連れて繁華街巡りなんて、いいご身分ね

ヴィクター　そんな暇じゃありませんよ。あなたに伺いたいことがありまして

ヴィクター、勝手に座る。ヴィクターの後ろにルーア、ソゥ立つ。

ヴィクター　あ、オレンジジュース、あります？

シンシア　ないわよ。・・・話したら、さっさと帰って

ヴィクター　・・・ユーリ、すみませんが席を外してもらえます？

ユーリ　・・・失礼します

ユーリ、去る。

シンシア、ヴィクターの向かいに着席する。

ヴィクター　この男に見覚えは？

シンシア　あるわよ。うちの客だもの

ヴィクター　アダム・ジェンキンズ。年齢不詳、表の顔は実業家、裏の顔は詐欺師。騙した女は数知れず。最近では、女性を騙して金を貢がせ、絞れるだけ絞ってあとはポイ

シンシア　酷い男ね

ヴィクター　そう思うでしょう？騙された女性の家族、友人からの相談が絶えない

シンシア　・・・ってことは、本人は騙された、とは思っていないってことね

ヴィクター　そうです。本人に話を聞いても、「私たちは愛し合っていたんです」としか皆言わないんです

シンシア　・・・それで？

ルーア　それで、って・・・

シンシア　女の子たちは騙されたって思っていないんでしょ。ならいいじゃない、放っておけば

ルーア　そうもいかない。相談は今月だけで十三件あったんだ
シンシア　お嬢ちゃんたちは知らないかもしれないけど、痴情の縺れやら何やらは日常茶飯事なのよ、この街では
ソゥ　とっても素敵な街だな
シンシア　そうね、自由でのびのび暮らせる素敵なところよ。引っ越してきたら？
ソゥ　結構だ
シンシア　あら、残念。・・・だいたい、いい歳した大人の恋愛に、赤の他人が口を出すなんて野暮じゃない？
ヴィクター　その大人の恋愛のお相手が問題だと申し上げているんですよ
シンシア　権力に屈しなきゃいけない立場の人間は大変ね、ご苦労様
ルーア　おい！先程からのその態度はなんだ！
ヴィクター　こらこら、落ち着きなさい
シンシア　ワンちゃんはちゃんと躾けておいてくれないと困るんだけど
ルーア　貴様・・・！
ヴィクター　ルーア。・・・そうだ、これを

ヴィクター、封筒をシンシアに渡す。

シンシア　何？
ヴィクター　ラブレターです。・・・僕もここが無くなるのは、嫌ですから

ドアの開く音。シロ、アンナ、来る。

シロ　シンシア
シンシア　ノックしなさいよ
シロ　・・・あ、来客中か
ヴィクター　いえ、大丈夫ですよ。もう帰るところなので。・・・では、失礼します

ヴィクター、ルーア、ソゥ、去る。

シロ　誰？あいつ
シンシア　さあ。人探ししてるみたいよ
シロ　はあ
シンシア　で、何かしら？
シロ　あ、こいつ、仕事探してるっていうから連れてきたんだ。どう？
アンナ　は、初めまして・・・
シンシア　名前は？
アンナ　アンナです。アンナ・ブラッドベリ。
シンシア　年は？
アンナ　先月でちょうど二十歳になりました

シンシア　・・・悪くないわね。シンガー？ダンサー？経験はある？
アンナ　え？
シンシア　だから、歌とダンス、どっちで出たいの？まあ、最終的にどっちもやってもらうわよ。うちは人手不足なの
アンナ　・・・もしかして、仕事って、ここで歌ったり踊ったりするの？
シンシア　え、まさかあんた、何も説明しないで連れてきたわけ？
シロ　え、俺言わなかったっけ？
アンナ　聞いてないよ！
シンシア　はあ？しっかり伝えてから連れてきなさいよ！
アンナ　最高じゃない！！
シンシア　え？
アンナ　素敵！私、歌もダンスも大好き！そういうお仕事、憧れてたの！派手だし楽しそうだし何よりこの美貌が活かせるし・・・お給料は・・・
シロ　マッチ売りなんかよりよっぽど良いよ
アンナ　最高！これからよろしくお願いします！
シンシア　・・・まだ何も説明してないんだけど・・・まあ、よろしく。とりあえず・・・
シロ　あ、シロ、もう良いわよ。あんたは片付けに行きなさい
シンシア　え？
シロ　知ってるわよ、今日の営業サボってたこと。私が気付かないとでも？
シンシア　え、いや、ハハハ・・・
シロ　本当は給料全カットに加えて罰金のところを、この子と片付けででチャラにしてあげるって言ってるのよ。ね？ほら、さっさと行く！
シンシア　は、はい！

シロ、去る。

☆M3『Once for Always』シンシア、アンナ

アンナ　私、頑張ります！
シンシア　歌はいいじゃない。ダンスはちょっとレッスンが必要そうだけど・・・元気があっていいと思うわ。みっちりレッスンしてから舞台に立ってもらうわよ。いい？
アンナ　・・・先生は厳しい？
シンシア　・・・かなりね。精神的より、肉体的にだけど
アンナ　体力には自信があります！
シンシア　なら大丈夫ね。多分。・・・あと、ステージネーム・・・ええと、あなたの呼び方を決めたいんだけど、希望はある？
アンナ　そのままアンナじゃダメですか？
シンシア　良いわよ
アンナ　ありがとうございます！

シンシア　まあ、後の細かいところは追々覚えていってくれればいいわ。今日はもう遅いし、明日からね。じゃあ、あなたの部屋に行きましょうか。急だったからちょっと片付いてないけど、荷物もあるだろうし・・・あら?荷物は?

アンナ　荷物?えーっと・・・マッチなら!

シンシア　・・・それ以外は?

アンナ　無いです!私、元マッチ売りなので!

シンシア　・・・じゃあ、後回しでいいわ。先に、先輩に挨拶しに行きましょう。きっと楽屋にいるはずだから

シンシア、アンナ、去る。

ユーリ、来る。

ヴィクター、ソゥ、ルーア、来る。

ユーリ　・・・ヴィクター

ヴィクター　ああ、要件は済みましたから、どうぞ

ユーリ　変わらないのね、あなた。大人になってもずっと

ヴィクター　・・・ソゥ、ルーア、先に出ていてください

ソゥ、ルーア、うなづいて外に出る。

ヴィクター　その話を二人の前でされると困るんですよ

ユーリ　いつまで隠し通せるのかしらね。まあ知ったこっちゃないけど

ヴィクター　あなたこそ相変わらず愛想がないですね。そんなんでやっていけるんですか?

ユーリ　余計なお世話

ヴィクター　目処は立ったんですか?

ユーリ　何の

ヴィクター　言ってたじゃないですか。大人になったらケーキ屋さんになるって。その目処ですよ

ユーリ　・・・いつの話してるの。今はそんなこと、微塵も思ってないから

ヴィクター　そうですか

ユーリ　・・・オーナーに何か変なこと吹き込まないでよね

ヴィクター　何も言っていませんけど

ユーリ　そう

ヴィクター　また来ます

ユーリ　・・・もう二度と来なくていいわよ

ヴィクター、ユーリに近づく。

ユーリ　・・・何よ

ヴィクター、ユーリの口角を指で上げる（シンシアと同じ動作をする）

ユーリ　ちょっと！
ヴィクター　それじゃ

ヴィクター、去る。

ユーリ　・・・何なのよ、もう・・・

ユーリ、去る。

《scene4　Ruby 控室》

ロゼ、カミラ、ソフィ、来る。お喋りをしている。
シロ、来る。

シロ　おつー。
ロゼ　あれ、もう終わったの？
シロ　いや。ちょっくら休憩
ロゼ　ふぅん
カミラ　どうだった？
シロ　何が
カミラ　お前が連れてきた新人
シロ　シンシアに全部任せてきたから知らん
ソフィ　うわ、責任感ないわね
シロ　うるさいな

ユーリ、来る。

ソフィ　あ、ユーリ、お疲れさま
ユーリ　お疲れ様（ジュースのボトルを持っている）
カミラ　あ、またそんなもん飲んで。こっちにしろ（ボトルを渡す）
ユーリ　・・・何、これ？
カミラ　カミラ特製ブレンドプロテインバージョン２！
ロゼ　え、やめときな、昨日飲まされたけどそれゲロマズだったよ
カミラ　違う、バージョン２って言ってるだろ。昨日のは初代。ポタージュ味とパイン味(日替わりしていいですよ)を混ぜたのが悪手だった。今日のは違うから。飲んでみてくれ！
ユーリ　・・・いらない（ボトルを突き返す）

カミラ　何でだよ！
ロゼ　味見したの？
カミラ　してない
ソフィ　まずは味見してみたら？
カミラ　確かに。・・・マッズ！

ジョー、来る。

ジョー　あ、いた
シロ　おつっすー
ジョー　おつっすじゃないですよ！片付けが終わってないんですけど
シロ　ちょっと休憩くらいさせてくれよ
ジョー　仕事ほっぽり出しておいてよく言えますね
シロ　まあまあ、落ち着けって。生き急いでも良いことないぜ
ジョー　誰のせいだと思ってるんですか！
カミラ　ジョー、疲れてるだろ、これやるよ（ボトルを押し付ける）
ジョー　カミラさん・・・優しいところもあるんですね、ただの鬼だと思ってました
カミラ　おい。・・・まあ、とりあえず飲め
ジョー　いただきます。・・・マッズ！何ですかこれ！
カミラ　吐き出すなよもったいないなあ。私もマズくて飲めなかったけど
ジョー　飲めないもの渡してこないでください！

シンシア、アンナを連れて来る。

シンシア　お疲れさま
みんな　お疲れ様でした
シンシア　今日も良かったわよ。みんなキラキラ輝いていて、まさに宝石！夜空に瞬く
お星様よりも煌めく色とりどりのジュエリーって感じだったわ！お客様も
増えてきたし、今月もこの調子でね。あ、片付けは終わってる？
ジョー　はい！
カミラ　大嘘つきがいるじゃんよ
ロゼ　あ！シロちゃんがナンパしてきた子がいる！
シロ　違う！！
シンシア　さっき採用した新入りちゃんよ。ご挨拶して
アンナ　はい！こんにちは！アンナです！歌もダンスも大好きです！でもやったこ
とはありません！頑張ります！よろしくお願いします！
シンシア　未経験だけど、まあ、元気が一番だし、採用したの。・・・人も万年足らな
いし・・・みんな、よろしくね
みんな　はーい
シンシア　ユーリ

ユーリ　はい
シンシア　部屋はあなたの向かいだから、後で案内よろしくね
ユーリ　・・・わかりました
シンシア　それじゃ、今日はこれで解散。明日の営業もよろしくね。お疲れ様でした
みんな　お疲れ様でした

シンシア、去る。

ジョー　ほらシロ！片付けに行きますよ！
シロ　へいへーい

シロ、ジョー、去る。

ソフィ　お疲れさま
ロゼ　あれ？ソフィ、どこか行くの？
ソフィ　・・・ちょっと夜風に当たってくるわ

ソフィ、去る。

カミラ　・・・んなこと言っちゃって
ロゼ　バレバレだよねえ
カミラ　お熱いねえ
ロゼ　新人ちゃんも気をつけなね
アンナ　へ？
カミラ　恋は盲目！理性は置き去り！
ロゼ　目が覚めた時に残るのは、きっと切ない私だけ！
アンナ　あの・・・？
カミラ　ちゃんと気をつけるんだぞ。この世界、周りには危ない男も沢山いるんだからな

ロゼ　そうそう。変な男に騙されちゃダメだよ～？
カミラ　一度沼にハマったら終わりだからな
ロゼ　まあでも、お熱いの、羨ましいかもな～
カミラ　冷める時は一瞬だぞ
ロゼ　ウッ、真理
カミラ　じゃ、お疲れ
ロゼ　お疲れさま
アンナ　お疲れさまです！
ユーリ　・・・お疲れさま

ロゼ、カミラ、去る。

アンナ　結局何の話だったのかしら
ユーリ　・・・さあ
アンナ　まあいっか。えーっと、改めまして、私、アンナ！よろしくね！
ユーリ　・・・
アンナ　あなたの名前、ユーリであってる？
ユーリ　・・・ええ
アンナ　ユーリって呼んでいい？先輩の方がいい？
ユーリ　・・・ご自由にどうぞ
アンナ　じゃあユーリって呼ぶわね！それにしても、ここ、とってもいいところね。みんなも優しいし、綺麗なお洋服も、美味しい食べ物もあるし、何よりお部屋も個室なんでしょ！やったー！
ユーリ　・・・普通よ
アンナ　普通じゃないわよ。うちなんてパパと二人暮らしなのに、リビングとキッチンしかないのよ！年頃の娘なのに！プライバシーもクソもあったもんじゃなかったわ！ねえ、ユーリのお家はどうだった？でもユーリってなんだかお嬢様っぽいし、おっきなお屋敷とかが似合いそう！メイドさんがいて、コックさんもいて・・・

ユーリ、立ち上がり、部屋に向かおうとする。

アンナ　あ、ちょっと、どこいくの？
ユーリ　・・・部屋に戻るのよ。早くついてきて
アンナ　あ、うん

ユーリ、去る。
アンナ、慌てて後を追い、去る。

《scene5　Ruby入口前》

アダム、来る。周りを見回して、去る。
ソゥ、ルーア、来る。

ソゥ　守備は？
ルーア　順調！
ソゥ　前方にアダム・ジェンキンズを発見！
ルーア　距離は適切！後方には敵なし！
ソゥ　なんで私たちがこんなこと・・・
ルーア　仕方ないでしょ。上司命令なんだから
ソゥ　それにしても、何でヴィクター様はこんな店にご執心なんだろうな

ルーア　え？アダム・ジェンキンズが通ってるからでしょ。ここのソフィっていう女と仲睦まじいご様子なのは明らかだし。絶対に尻尾を掴んでやる！（尻尾を捕まえるジェスチャー）

ソゥ　それだけじゃない気がするんだよ。なんかあのユーリ？とかいう女とも知り合いっぽかったし

ルーア　えー、まあ、確かに？でも気にしすぎじゃない？

ソゥ　・・・もしかして

ルーア　何？

ソゥ　もしかして、あのオーナーか、ユーリって女、ヴィクター様の・・・

ルーア　ないない。ヴィクター様に限って、そんな公私混同

ソゥ　・・・そうだよな

ルーア　そうだよ。ただの仕事としか思ってないって

ソゥ　しっ、誰か来た

ソゥ、ルーア、隠れる。ルーア変な隠れ方。バレバレなのだとおもろい。

ルーア　・・・行った？

ソゥ　お前隠れる気ないだろその隠れ方は！

ルーア　まあいいじゃん！バレなかったし

ソゥ　本当にバレずに追跡できてるのか、心配になってきた・・・

ルーア　大丈夫だって！ほら、ソゥもこれかけて！

ルーア、ソゥにサングラスを渡す。自分もかける。

かけた瞬間曲が始まる。

☆M4　『誇りにかけて！』ソゥ、ルーア

ルーア　あ、来た！

ルーア、ソゥ、隠れる。

アダム、来る。ソフィを待っている。

ソフィ、来る。

アダム　・・・ソフィ！

ソフィ　ごめんね、待った？

アダム　ちょっとだけ。でも、君を待つ時間も美しくて尊いものさ

ソフィ　アダム・・・

アダム　それに、今日の君もとても素敵だったよ。アフロディーテも嫉妬するくらいにね

ソフィ　ありがとう

ルーア　熱ゥ！こんなん真夏の砂浜裸足で歩くより熱くて火傷するわ！
ソゥ　うるさい！静かに！
アダム　・・・それで、あの話なんだけど
ソフィ　・・・ええ
アダム　答えを聞かせてくれないかな
ソゥ　あの話？なんの話だろう
ルーア　やっぱり何かを隠しているのは間違いないな
ソフィ　・・・まだ、わからないわ
アダム　どうして？
ソフィ　あなたのお誘いは、とっても嬉しいの。本当よ。でも、まだ私には早いんじゃないかって、ずっとそう思ってるの。それに、オーナーだって、何て言うか・・・
アダム　君の気持ちもわかるよ。ここが好きだってことも。でも、君が今後、大きな舞台で輝くためには、必要なことだと思うんだ
ソフィ　そうかもしれないけれど・・・
アダム　・・・ソフィ、いいかい？君はね、もっと大きな空へと羽ばたけるはずなんだよ。
ソフィ　・・・
アダム　それに、君がしたいことはするべきだ。誰がなんと言おうが、君がどうしたいかが一番大切なんだよ
ソフィ　私が？
アダム　そう。君が、どんな未来を描き、どんな道を進むのか。僕は、君の望むことなら、何でも叶えてあげたいんだ

シロ、来る。ソフィとアダムが話しているのに気づく。見守る。

ソフィ　・・・叶えたい、こと・・・
アダム　・・・まあ、まだ時間はある。ゆっくり考えてくれ。じゃあ、おやすみ
ソフィ　・・・おやすみなさい

アダム、去る。それを見つめるソフィ。
シロ、今来たようにソフィに声をかける。

シロ　ソフィ。何してんの？
ソフィ　・・・ちょっと、夜風に当たってただけ
シロ　ふーん。あ、今日もあの人、来てたのか？
ソフィ　あの人？
シロ　アダムだっけ？あの上客。会うとチップくれるんだよな。今日出ときゃよかったかな
ソフィ　はい、これ

シロ　何これ
ソフィ　アダムがシロにって。あの人、あなたのこと気に入ってるのよ
シロ　マジ！？ラッキー。ありがたく頂こっと
ソフィ　・・・シロは、この仕事、楽しい？
シロ　え？なんだよ急に
ソフィ　なんとなく
シロ　・・・まあ、毎日退屈はしねえよな
ソフィ　・・・そ

ソフィ、立ち上がる。

ソフィ　おやすみ、シロ
シロ　え、ああ、おやすみ

ソフィ、去る。

シロ　・・・あれ？
ソウ　うわ！
ルーア　バレた！

ソウ、ルーア、逃げようとする。
ルーア、シロに捕まる。

シロ　何かは知らんがこそこそ嗅ぎ回るなんていい根性してるな
ルーア　はーなーせー！
ソウ　捜査の邪魔をするな！
シロ　ていうかここ、うちの敷地なんだけど。不法侵入じゃん
ソウ　ギリ入ってないから！セーフだから！
シロ　・・・ち、残念

シロ、ルーアを離す。

シロ　で、何嗅ぎ回ってるワケ？
ソウ　一般人の貴様に教える訳ないだろう
シロ　ああそう。・・・なあ
ソウ　なんだ
シロ　お前らは、その仕事、楽しい？
ルーア　楽しいに決まっている！
シロ　お前はそうだろうな、そんだけ楽しんでれば

ソゥ　ルーアはともかく、私は、世の中の治安を良くしているんだ。楽しいかどうかはともかく、私はこの仕事に誇りを持っている

シロ　・・・すげえ真面目な回答、どうも

ルーア　なんだ。仕事が嫌なのか？

シロ　ちげえよ

ソゥ　まあ、人間色々あるからな。頑張れよ

シロ　なんの慰めだよ

ソゥ　じゃあな

ソゥ、ルーア、去る。

シロ　・・・あ、満月

☆M5　『far away』シロ、ジョー

ジョー　綺麗な月ですねえ

シロ　・・・告白？

ジョー　やめてください気持ち悪い

シロ　ハハ

ジョー　・・・きっと大丈夫ですよ

シロ　何が

ジョー　さあ。何となく、言いたくなって

シロ　・・・そ

ジョー　さ、明日の営業のためにも、もう寝ましょう

シロ　明日もサボっていい？

ジョー　ダメに決まってるでしょう！

シロ、ジョー、軽口を叩きながら去る。

《scene6　ユーリの部屋》

ベッドで寝ているユーリ。鳥の鳴き声とか効果音。

アンナが勢いよく入ってくる。

アンナ　ユーリ、おはよう！

ユーリ　・・・うーん・・・

アンナ　気持ちのいい朝よ！って言ってももうお昼前だけど！

ユーリ　・・・うるさい・・・

アンナ　太陽は天高く上り！鳥たちの囀りが聞こえ！心地よい風が吹いているわ！

ユーリ　・・・静かにして・・・

アンナ　こんな天気のいい日に太陽を浴びないなんて勿体なすぎるわ！起きて！
ユーリ　・・・うう・・・

ユーリ、のそのそと起き上がる。

ユーリ　・・・私、あなたに入室を許可した覚えはないんだけど
アンナ　さっきシンシアさんに言われたのよ。起こしてきてあげてって
ユーリ　・・・そう・・・
アンナ　今日はしっかりみんなのショーを見て勉強するの！楽しみ！
ユーリ　・・・用は済んだでしょ、出てって
アンナ　まだよ。今日一日、あなたについて行って勉強するの！
ユーリ　・・・それもオーナーが？
アンナ　ええ！
ユーリ　・・・
アンナ　シンシアさんがね、ユーリは、年も近いし、きっと私と性格も合うわよって
ユーリ　・・・どこが？
アンナ　それに、ユーリって、とっても綺麗
綺麗？
ええ！だから、私、あなたとお友達になりたいの！あ、でも私、今までお友達ってできた事ないの。歳の近い子なんて、周りにいなかったから。ユーリはどう？お友達、いる！？

ユーリ　・・・いない
アンナ　カミラさんと、ロゼさんと、ソフィさんは？
ユーリ　あれは同僚だもの、友達じゃないわ
アンナ　友達と同僚って、何が違うの？
ユーリ　え？うーん・・・一緒にご飯を食べに行ったり、遊んだことがあれば、友達なんじゃない？
アンナ　みんなとはないの？
ユーリ　なくはないけど・・・
アンナ　じゃあみんな友達じゃない。私たちも、今日からお友達ってことで！
ユーリ　・・・とりあえず、着替えるから部屋の前で待ってて
アンナ　・・・うん！

アンナ、部屋の外に出る。

ユーリ　・・・はあ・・・

回想シーン。

ママ　・・・ユーリ

ユーリ　・・・ママ？どこいくの？
ママ　・・・ちょっと出かけてくるわ
ユーリ　どこに？
ママ　・・・ごめんね。ママを、許してね
ユーリ　ママ？その男の人、誰？
ママ　・・・愛してるわ、私の可愛い、ユーリ

ママ、去る。

ユーリ　・・・ママ？ママ！

シンシア、来る。

シンシア　ユーリ？
ユーリ　・・・ママが、知らない男の人と、出かけてくるって
シンシア　・・・そう・・・大丈夫よ。すぐ戻ってくるから。・・・さ、朝ごはんにしましょう
ユーリ　・・・うん

シンシア、去る。

ユーリ　・・・ママは、いなくなった。私を置いて。だから、私が代わりに輝かなくちゃいけない。私は、ここで、キラキラした、宝石であり続けなくちゃいけない。・・・だって、私の居場所は、ここだから。ここしかないから。だから今日も、私は宝石であることを選ぶ。私であり続けるために。

ユーリ、去る。

《scene7 Ruby 店外/店内》

ソフィ、来る。アダムを待っている。
アダム、来る。

ソフィ　アダム
アダム　ソフィ。これを（封筒を渡す）
ソフィ　これは？
アダム　君へのプレゼントだよ
ソフィ　・・・もしかして
アダム　そう。僕の気持ちを伝えたくてね。本契約は来週だ。一緒に来てくれるかい？

ソフィ　・・・
アダム　・・・また来るよ。いい返事を、祈っているよ

アダム、去る。
ソフィ、それを見送る。
開店。M2ちょっと流す。短めの楽しい演出。ショー。
閉店。キャスト陣はお見送り。
そのままミーティング。

シンシア　みんな、お疲れさまでした
みんな　お疲れさまでした
シンシア　はい、何かある人？

みんな手をあげる。ランダムで2～3人指して、アドリブ。ここに客弄りとか入れていい。
高いチケット買った人とか（検討中ですが）。

シンシア　はい、じゃあもういいわね。明日は定休日です。カミラ、明日からアンナの指導よろしくね
カミラ　分かりました
シンシア　じゃあ、今日は、解散！お疲れさま
みんな　お疲れ様でした

ジョー、シロ、シンシア、去る。
他のみんなは荷物をまとめる。
アンナ、帰ろうとするがカミラに呼び止められる。

カミラ　おい新人！
アンナ　はいっ！
カミラ　明日から、この私がお前のレッスンを担当する！
アンナ　はいっ！
カミラ　明日は、朝六時に集合だ！
アンナ　六時！？
カミラ　そうだ！体力作りから始めるからな！返事は！
アンナ　はい！
ロゼ　よくやるねえ
カミラ　何言ってんだ。ロゼも参加するんだよ
ロゼ　ええ？明日はゆっくり寝る予定だったんだけど！
カミラ　歌のレッスンの時間になったら呼びに行くから、それまでは寝てていいぞ
ロゼ　何時？
カミラ　九時

ロゼ　到底夜の女とは思えない時間・・・
カミラ　よし！じゃあ！また明日！
アンナ　お疲れ様でした！

カミラ、去る。

ロゼ　明日は早起きかあ・・・ううう・・・
ユーリ　頑張って
ロゼ　はあ・・・貴重な休日が・・・
アンナ　ロゼさん！私、一生懸命頑張ります！よろしくお願いします！
ロゼ　眩し！頑張るしかないじゃん・・・

ロゼ、上の空のソフィに気づく。

ロゼ　・・・ソフィ？どうしたの？
ソフィ　え？・・・ううん、何でもないわ
ロゼ　そ？ならいいんだけど。よし、今日は一秒でも早く寝る。じゃ、みんな、お疲れ様！

ロゼ、去る。

ユーリ　・・・ソフィ、大丈夫？
ソフィ　大丈夫。何でもないから。・・・おやすみ

ソフィ、去る。

アンナ　・・・なんか、元気なかったね
ユーリ　そうね
アンナ　それはそうと、ユーリ！
ユーリ　何？
アンナ　一緒にご飯食べてよ！
ユーリ　何で？
アンナ　まだ、友達の返事もらってないんだもの。私だけ友達じゃないのは不公平だわ！
ユーリ　だから別に・・・
アンナ　あ、分かった！自己紹介が足りなかったのね。えっと、私はアンナ！アンナは本名！好きなものは美味しいもの！嫌いなものはまずいもの！ここにくる前のお仕事は、マッチ売りの少女！
ユーリ　マッチ売り？
アンナ　そう。私、道端でマッチを売ってたの。パパのお酒代を稼ぐために

ユーリ　売れた？
アンナ　全然。ライターとかジッポとかが蔓延るこの世界で、売れるわけないじゃない
ユーリ　まあ、そうでしょうね
アンナ　パパ、きっと今頃困ってるだろうな。娘は帰ってこないし、お酒を買うお金はないし！ざまあみろって話よね
ユーリ　・・・ママは？
アンナ　ママは私が四つの時に出てっちゃった。顔もあんまり覚えてない
ユーリ　・・・そう
アンナ　まあ、だから何とも思ってないんだけどね。ママがいないって言うのを知ると、同情的な目で見られちゃうじゃない？本人が全然気にしてなくても
ユーリ　・・・アンナは強いのね
アンナ　そうかな？
ユーリ　そうよ
アンナ　ねえ、ユーリは、いつからここで働いてるの？
ユーリ　・・・デビューしたのは、十八の時。・・・でも私、ずっとここで育ったのここでって、Rubyが実家ってこと？
アンナ　まあ、そんな感じ。ママがここのダンサーだったのもしかしてシンシアさん！？
ユーリ　違うわよ。・・・もう、ここにはいないの
アンナ　・・・どうして？
ユーリ　アンナと一緒。ママはここを出て行っちゃったの。男の人と一緒に。仕事も私も捨てて
アンナ　・・・そっか
ユーリ　でも、そんな私を、オーナーがここまで育ててくれたの。だから、私も恩返ししなくちゃ。
アンナ　だから、ここで働いてるの？
ユーリ　そう。オーナーの夢は私の夢。・・・それに、私はここでしか生きられないから
アンナ　え？
ユーリ　・・・アンナは、夢とかあるの？
アンナ　夢？そうね・・・前はあの家から脱出してお金持ちになるのが夢だったけど、半分叶ったみたいなもんだし、今は誰もが虜になる輝くトップスター、が夢かしら！
ユーリ　・・・大きく出たわね
アンナ　バシバシ舞台に立って、色んな人を魅了して、いっぱいファンもできて、ファンレターも山のように・・・あ！手紙！
ユーリ　手紙？
アンナ　ファンレターで思い出した！パパに手紙書いてあげようと思ってたの、すっかり忘れてた！

ユーリ　・・・そんな酷い親に手紙書く必要、ある？
アンナ　・・・よく考えたらないかも
ユーリ　いいんじゃない？書かなくて
アンナ　確かにそうね！やーめた！

ユーリ、アンナ、笑う

アンナ　・・・私たち、いいお友達になれると思わない？
ユーリ　・・・そうかもね
アンナ　改めて、よろしくね、ユーリ
ユーリ　・・・うん

アンナ、ユーリ、握手。

ユーリ　あ、明日のレッスン、頑張ってね。死なないように。せっかくできたお友達をなくすのは悲しいから
アンナ　え、そんなに！？

ユーリ、微笑んで、去る。

アンナ　ちょっと！ユーリ！

アンナ、去る。

《scene8　ヴィクターの部屋》

ヴィクター、着席。

ソゥ　失礼します
ルーア　失礼します

ソゥ、ルーア、入ってくる

ソゥ　こちら、報告書です
ヴィクター　どうでした
ルーア　店の中がうるさかったです！
ソゥ　そうじゃないだろ。特に変わったことはありませんでした
ヴィクター　うーん、そうですか。・・・引き続き、調査を続けてください
ルーア　・・・ヴィクター様
ヴィクター　はい

ルーア　ヴィクター様は、どうしてあの店に肩入れするんですか？
ソゥ　ば、お前！
ヴィクター　・・・そう見えますか？
ソゥ　いえ、あの・・・
ヴィクター　正直に。
ソゥ　・・・はい
ヴィクター　なら勘違いですね。別に何もありませんよ
ルーア　・・・そうですか
ソゥ　し、失礼します！

ルーア、ソゥ、去る。

ヴィクター、ポケットから写真を取り出す。眺める。
ヴィクター、去る。

《scene 9　Ruby》

カミラ、ジョー、来る。カミラは準備運動。

ジョー　何で僕まで朝六時に起こされなきゃならないんですか・・・
カミラ　いいじゃんか。新人育成も仕事のうち！
ジョー　ボーイ通り越して雑用通り越して何でも屋になってきてる・・・

アンナ、来る。

アンナ　おはようございます！よろしくお願いします！
カミラ　お、来たな新人。早速始めるぞ！私のことは教官と呼べ！
アンナ　はい！教官！
カミラ　ジョーのことは副教官と呼べ！
アンナ　はい！副教官！
ジョー　あら、悪くない響き
カミラ　よし！まずは準備運動からだ！

☆M6　『ヒロイン☆育成計画～カミラのブートキャンプ/ロゼのボーカルレッスンの二本立てでお送りします～』カミラ、ロゼ、アンナ、ジョー

カミラ　よし！今日のトレーニングは終わり！
アンナ　あ、ありがとうございました・・・
カミラ　今日は、ゆっくり休むように！休むのも大事だからな！
アンナ　は、はい、教官・・・

ロゼ　　え、どこ行くの？
カミラ　　まだいけそうだし、もうちょい走ってくるわ
ジョー　　ま、まじすか・・・
ロゼ　　体力ありすぎてキモい・・・

カミラ、スキップで去る。
ユーリ、来る。

ユーリ　　・・・何ここ、墓地？
ジョー　　死体じゃないです・・・かろうじて呼吸してますし・・・
ロゼ　　私・・・シャワー浴びてこようかな・・・
アンナ　　溺れないで・・・くださいね・・・
ロゼ　　がんばるね・・・

ロゼ、死にそうになりながら去る。

ユーリ　　・・・大丈夫？
アンナ　　何とか・・・生きてる・・・
ユーリ　　これ、いる？
アンナ　　あ、ありがとう・・・

ユーリからビンを受け取り、飲む。
ユーリ、ジョーにも渡す。

アンナ　　ああ、生き返った・・・
ジョー　　ありがとうございます・・・
アンナ　　本当に、死にそうだった
ユーリ　　言った通りだったでしょ
ジョー　　いつもの５倍回してました・・・
アンナ　　休みだろうと、こんなトレーニングをするなんて、みんなすごいね・・・
ユーリ　　こんなことしてるの、カミラくらいだと思う
アンナ　　ええ！？そうなの！？
ユーリ　　でも、アンナは出られるようになるまでは、ダンスも歌も頑張らないとね
アンナ　　毎週こんなことしてたら、出る前に死んじゃうよお・・・
ジョー　　好きなように過ごしていいはずの休日なんですけどね

アダム、来る。

アダム　　こんにちは
ジョー　　アダム様

アダム　ジョーくん。この間はありがとう
ジョー　いえ、こちらこそいつもありがとうございます。・・・本日は定休日ですが・・・
アダム　ああ、ソフィとこれから食事に行く約束をしているんでね。迎えにきたんだ
ジョー　そうでしたか
アダム　・・・そちらのお嬢さんは、見ない顔だね
ジョー　先日入った新人です。まだショーには立てませんが
アンナ　初めまして、アンナと言います
アダム　初めまして。アダム・ジェンキンズだ。気軽にアダムと呼んでくれ
ジョー　アダム様はよくいらしてくださるんです。特に、週末は必ず
アダム　いつも楽しい時間を過ごせているのはジョーくんのおかげだよ。ここのスタッフは皆とても優秀だからね。シンシア嬢が羨ましいよ
ジョー　お褒めいただき光栄です
アダム　いつか我が社に引き抜いてしまおうかな
ジョー　ご冗談を
アダム　いや、僕はいつだって真剣だよ。もちろん、ソフィのこともね
ジョー　こんなに想われて、ソフィさんも幸せですね

ソフィ、来る

ソフィ　あら、もういらしてたの
アダム　早く君に会いたくてね
ソフィ　出かけてくるわね。帰りは、遅くなりそう
ジョー　お気を付けて

ジョー、ソフィ、去る。

アンナ　なーんか、怪しくない？
ジョー　え？
アンナ　なんか、危険な香りがする男
ジョー　そうですか？いい人ですよ
ユーリ　私はあんまり好きじゃないけど
ジョー　そうだったんですか？
ユーリ　いかにもお金持ちですって感じが、ね
ジョー　何言ってるんですか。お金持ちがいるからうちの店が成り立つんですよ！
アンナ　でも危険な男ってついて行きたくなるのよね
ユーリ　売り飛ばされるかもよ
ジョー　もう！失礼ですよ！

ソウ、ルーア、来る。

ルーア　おうおうおうおう邪魔するでぃ！
ソゥ　するでー（棒読み）
アンナ　うわ、なに
ルーア　ここにソフィとかいう女おるやろ！はよ出さんかいワレぇ！
ジョー　誰ですかあなたたちは
ソゥ　失礼。私達は、保安局の者です。ソフィさんにお話を伺いたく
ルーア　大人しく出てこんかいワレぇ！
ユーリ　なんなのこいつは
ソゥ　なんだかそういうドラマを最近見ているらしくて・・・すみません・・・
ジョー　ああ・・・大変ですね・・・
ソゥ　ソフィさんは今どちらに？
ジョー　出かけましたよ。さっき、お得意様と
ソゥ　お得意様？
ジョー　ええ。
ルーア　それは誰だか言わんかいゴルァ！
ジョー　あ、はい、アダム様ですけど・・・
ルーア　それはアダム・ジェンキンズのことかいワレぇ！
ジョー　そうですけど
ソゥ　どちらに？
ジョー　さあ、そこまでは・・・
ソゥ　・・・分かりました。では、日を改めます
ルーア　改めるぞワレぇ！
ソゥ　・・・では
シンシア　待ちなさい

シンシア、来る

ソゥ　これはどうも
シンシア　下っ端二人で聞き込み？
ソゥ　ええ、まあ。
シンシア　ちょっとこちらからも伺いたいことがあるの。いいかしら？
ルーア　いいわけないだろゴルァ！
シンシア　いいかしら？（圧）
ルーア　・・・はい
シンシア　ジョー、お茶を入れてくれる？
ジョー　かしこまりました
シンシア　よろしくね

シンシア、ソゥ、ルーア、ジョー、去る。

アンナ　うるさい二人だったわね
ユーリ　そうね
アンナ　汗でべちょべちょだし、私もシャワー浴びてこようかな
ユーリ　それがいいんじゃない？
アンナ　あ、ねえ、その後一緒に、アイス食べに行こう！
ユーリ　アイス？
アンナ　アイス！角のアイス屋さん、ここに来る前に見かけていいなって思ってたの。絶対トリプルにする！いちごもいいし、キャラメルもいいし、ちょっと大人にラムレーズン？りんごのソルベ？迷っちゃう！
ユーリ　とりあえず、シャワー、浴びてきたら？
アンナ　じゃあ、準備できたらここで待ち合わせね！

アンナ、去る。
しばらくして、ヴィクター、来る。

ヴィクター　・・・こんにちは
ユーリ　・・・あなたの部下は、オーナーの部屋にいるけど
ヴィクター　そのようですね。連絡をもらったんですよ、引き取りに来いって
ユーリ　早く行ってあげたら
ヴィクター　そうします

ヴィクター、二、三歩歩いて止まる。

ヴィクター　そうだ
ユーリ　何？
ヴィクター　これ、あげますよ
ユーリ　何これ
ヴィクター　角のアイス屋さんの割引券です。これから行くんでしょう
ユーリ　聞いてたの？
ヴィクター　それが仕事なので
ユーリ　・・・もらっといてあげる

シャワー後のロゼ、通りかかる。二人が会話しているのを見つけて、咄嗟に隠れる。
カミラ、ランニングから戻ってくる。ロゼに手招きされてそっちに寄る。

カミラ　何あれ
ロゼ　恋の香りかも！フローラル感じる！
カミラ　・・・自分のシャンプーじゃない？
ロゼ　しかもイケメンだよ？
カミラ　確かに。でもな、男は顔じゃない。ハートが重要だろ

ロゼ　　そうかなあ

ヴィクター、シンシアの部屋へ去る。
ロゼとカミラ、ユーリに駆け寄る。

ロゼ　　ちょっと！あの人誰！？
ユーリ　え？ああ、あれは・・・
カミラ　ソフィに続きお前にも恋の予感が
ユーリ　違（う）
ロゼ　　隠さなくてもいいって。ロゼちゃんには全てお見通しよ！
カミラ　でも夢中になりすぎるなよ
ロゼ　　でも真面目系だし末長く愛してくれそうではあった！
カミラ　まあ、なんかあったら言ってくれよ。相談に乗るからな！

ロゼ、カミラ、楽しそうに去る。

ユーリ　　・・・何か、勘違いしてるなあ

アンナ、戻ってくる。

アンナ　お待たせ！・・・どしたの？
ユーリ　・・・ううん、なんでもないわ。行きましょう
アンナ　うん！

アンナ、ユーリ、去る。

《scene10 シンシアの部屋》

シンシア、ジョー、ソゥ、ルーア来る。
ジョー以外座る。

シンシア　なるほど。つまり、あなたたちは、ソフィがアダムに騙されているんじゃないか、って言いたいのね？
ソゥ　　はい。ジェンキンズの周辺を探りましたが、今はソフィさん以外の女性の影がありません。二人で個室に入って行く姿も見受けられたので・・・おそらく、そこで金品を貢いでいるのではないか、と
ルーア　ジェンキンズがこの店に来るようになったのは、いつ頃からですか？
シンシア　そうね・・・多分、半年前くらいだったかしら
ソゥ　　彼が来るようになってから、ソフィさんに変わったことは？

シンシア　特には・・・まあ、物憂げな顔は増えたかもね
ルーア　恋煩いだ！純粋な乙女の恋心を利用して、金を貢がせるなんて許せない！

ノックの音。

シンシア　どうぞ
ヴィクター　引き取りに来ましたよ
ソゥ　ヴィクター様！
ヴィクター　勝手に帰ってきてくださいよ。僕も忙しいんですから
シンシア　あらなんだ、ちゃんと許可をもらった訪問だったのね
ルーア　だからさっきからそう言ってるじゃないですか！信じてもらえなかったんですよ！
ジョー　まあ、あんな風に入ってこられちゃ、ね
ヴィクター　・・・何をしたかは、後でしっかり聞きます。どこまで話を？
シンシア　ソフィが悪い男に貢がされてるんじゃないかってところまで
ヴィクター　他の従業員は？
シンシア　いると思うけど、話を聞きに行くの？
ヴィクター　変わったことがないか聞くだけですよ。ルーア、ソゥ、行きなさい
ソゥ　はい
ルーア　はい！

ソゥ、ルーア、聞き込みに行く。

シンシア　許可してないんだけど？
ヴィクター　僕の命令ですから
ジョー　見張ってきましょうか？
シンシア　・・・まあ、いいわ
ヴィクター　これでも心配してるんですよ、あなたのこと
シンシア　どうだか
ヴィクター　信じてくださいよ
シンシア　考えとくわ
ヴィクター　・・・ユーリ
シンシア　え？
ヴィクター　本当に愛想がないですね、彼女は
シンシア　そんなことないわよ、嫌われてるんじゃない？
ヴィクター　それは悲しいですね
シンシア　・・・羨ましいのよ、きっとあんたのことが
ヴィクター　何故？
シンシア　・・・自分で選んで、自分で未来を掴んだから
ヴィクター　・・・なるほど

シンシア　いつだって、その気になれば誰でも自由になれるのにね
ヴィクター　そうですね
シンシア　でも、私が言っても、分からないって顔をされるの
ヴィクター　まあ、雇い主が言っても、説得力はないですね
シンシア　そうね。・・・だから、懸けてるの
ヴィクター　何に
シンシア　・・・友情？
ヴィクター　・・・祈っておきますよ、綺麗な蝶が羽ばたけるように

ノックの音。

シンシア　どうぞ
シロ　おい！シンシア！

カミラ、シロ、ルーアを連れて入ってくる。

ジョー　何事！？
カミラ　あ、さっきの。あんたがヴィクター？こいつの上司？
ヴィクター　はい
シロ　なんとかしろよ。こいつ、しつこいんだけど
ルーア　酷いんですよ！この人たちに話を聞こうと思ったらちんちくりんのガキって言われたんです！
カミラ　ちんちくりんの癖に態度が最悪だからだろうが！
ルーア　誰がちんちくりんじゃワレぇ！
ジョー　あ、さっきのやつだ
ヴィクター　ソフィさんに最近何か変わったことがないか、皆さんに伺っているんです。何か心当たりはありませんか？
シロ　ソフィ？特に・・・ああでも、最近よく深夜に出かけてるな。
カミラ　アダムと会ってんじゃない？ソフィの客の
ルーア　その様子も何度か捉えてます

ノックの音。

シンシア　どうぞ
ロゼ　はい、ここですよ
ソゥ　すみません、ありがとうございました
ロゼ　いえいえ。ちょっと分かりづらいですよね、ここの中
ジョー　・・・この短時間で迷ったの？
ソゥ　・・・お恥ずかしながら・・・
ロゼ　うわ、なんかいっぱいいる、人が。（ヴィクターを見て）あ、さっきの

ヴィクター　僕？
ロゼ　さっきユーリと親しげに話してたでしょ
ヴィクター　まあ、はい
カミラ　やっぱりな
ジョー　やっぱり？
ロゼ　やっぱり二人は・・・
ソゥ　（デカ咳払い）・・・ちょっといいですか。こちらのロゼさんなんですが、ソフィさんが、大金の入った封筒を持っているところを見たそうで・・・いつ見たの？
シンシア　一週間くらい前ですね。たまたま見えちゃったんですよ。しかも深夜なのにフルメイクで、服装もこれから出かけます、みたいなので。変じゃないですか？
ロゼ　その日、その後どうしたかは分かりますか？
ソゥ　なんだか出かけてたみたいだけど、それ以上は・・・
ヴィクター　ジェンキンズと会っていたと考えるのが妥当かと
ルーア　・・・なるほど。分かりました。ご協力、ありがとうございました
ヴィクター　え！帰るんですか！
ソゥ　はい
ルーア　ルーア、行くぞ
・・・ええ・・・うう・・・

ヴィクター、ソゥ、ルーア、去る。

カミラ　ちんちくりんだったなあ
ロゼ　なんだったんですか？
シンシア　まあ、様子見るしかできないわね、現時点では
ジョー　アダム様、僕はいい人だと思うんですけどね・・・信じられません
シロ　金払いはいいけど、それの出所がソフィじゃ、な
シンシア　まだそうと決まったわけじゃ無いけど・・・みんな、ソフィには今日のこと内緒にしておいてね
3人　はい

カミラ、ロゼ、シロ、去る。
ジョーも去る。
シンシア、写真をポケットから取り出す。

☆M7　『and…』シンシア、ヴィクター

ヴィクター、去る。

シンシア　　私はただ、好きなように生きてほしいだけなんだけど、ね

シンシア、去る。

《scene11 公園》

アンナ、ユーリ、来る。アイスを持っている。
芝生の上に座る。

アンナ　あー！お日様サイコー！これは絶好のアイス日和ね！割引券に感謝！
ユーリ　結局味は何にしたの？
アンナ　迷った末のダブルチョコマーブルとオレンジキャンディストロベリーとアップルパイストリーム！
ユーリ　・・・不思議な味がしそうね
アンナ　ユーリは？
ユーリ　バニラとチョコとストロベリー。普通の
アンナ　冒険しなかったの？
ユーリ　私は安定を求めるの
アンナ　そんなのつまんなーい
ユーリ　安定した人生ほど、この世で素晴らしいものはないわ
アンナ　でもさ、Rubyで働くのって、私は冒険だと思うけどなあ
ユーリ　そう？
アンナ　そうだよ。キラキラした舞台！素敵な歌と素敵なダンス！綺麗なお姉さん！美味しいお酒！・・・今までとは全然違う、華やかで楽しい世界でうっとりしちゃう
ユーリ　アンナにとってはそうかもしれないわね
アンナ　ユーリは、楽しくないの？
ユーリ　・・・楽しい時もあるけど、よく分からない
アンナ　どうして？
ユーリ　だって、ずっとこの仕事してるんだもの。これが私にとっての安定なの
アンナ　・・・そっか
ユーリ　そうよ
アンナ　・・・やめたくならない？
ユーリ　・・・どうして？
アンナ　・・・なんとなく、聞きたくなって
ユーリ　・・・私はね、ここでしか生きられないの。この世界でしか、呼吸ができないの。ママの子だから
アンナ　・・・ユーリのママって、どんな人だったの？

ユーリ　・・・ママはね、Rubyのトップだったんだって。オープンした時から、いなくなるまで、ずっと。ママのファンも沢山いたし、キラキラ輝く舞台で踊るママは、とっても素敵だった。私の憧れだった。

回想シーン

ママ　・・・ユーリ！
ユーリ　ママ！
ママ　待たせてごめんね、ユーリ

ユーリ　ショーが終わると、私にそう言って、優しく抱きしめてくれるママが好きだった。本当はとっても眠たかったけど、ママに抱きしめてもらいたくて。毎晩その時間が待ち遠しかった。

ユーリ　ママ、今日も頑張った？
ママ　頑張ったわよ。それに、ママは、ユーリがいるから頑張れるのよ。ユーリがいてくれるから、ママは一生懸命お仕事ができるの
ユーリ　ユーリのおかげ？
ママ　そう、ユーリのおかげ！

シンシア、来る。

シンシア　イヴ
ママ　・・・シンシア
シンシア　何かあったの？最近、元気がなさそうだけど・・・
ママ　・・・大丈夫。何でもないわ
シンシア　そう？じゃあ、何かあったら、言って。相談乗るから
ママ　・・・ありがとう、シンシア

シンシア、去る。

ユーリ　でも、その日の夜。

ユーリ　・・・ママ？
ママ　・・・ユーリ
ユーリ　・・・ママ？どこいくの？
ママ　・・・ちょっと出かけてくるわ
ユーリ　どこに？
ママ　・・・ごめんね。ママを、許してね
ユーリ　ママ？その男の人、誰？

ママ　　・・・愛してるわ、私の可愛い、ユーリ

ママ、去る。

ユーリ　　・・・ママ？ママ！

ユーリ　　・・・ママがいなくなった時、その時のオーナーはすっごく怒ってた。稼ぎ頭がいなくなった、って。でもね、シンシアが守ってくれたの。シンシアのおかげでお店も守れたし、私も大人になれた。だから、今度は私が、その分働かなきゃって。ここで、輝かなきゃって。そうじゃないと、私・・・

アンナ　　・・・ユーリ

☆M8『名前の無い空へ』アンナ、ユーリ

アンナ　　ユーリが、ママに、昔のことに、縛られる必要はないわ

ユーリ　　・・・うん

アンナ　　だって、ユーリはユーリだから。・・・だから、自分を殺すのはやめて。自分に素直になっていいと思うの

ユーリ　　・・・うん

アンナ　　もちろん、ユーリが、自分の意思でショーのお仕事を続けたいなら、続けるべきだと思う。・・・きっとオーナーも、ママも、同じ事思ってると思うな

ユーリ　　・・・そう、なのかな

アンナ　　そうよ。だってきっと、ママって娘の幸せを一番に考えてるはずだから

ユーリ　　・・・そうだといいな

アンナ　　さ、帰ろ。暗くなっちゃう前に！

ユーリ　　・・・うん！

アンナ、ユーリ、去る。

《scene12　公園》

ソフィ、アダム、来る。多少酔っている。

ベンチに座る。

ソフィ　　今日はありがとう

アダム　　こちらこそ

ソフィ　　素敵なお店だったわね

アダム　　・・・ソフィ、聞いて欲しいことがある

ソフィ　　何？

アダム　　君のために、いい計画を思いついたんだ

ソフィ　計画？
アダム　君と一緒になるために、僕なりに考えてみたんだ。君をここから連れ出すには、どうしたらいいかって
ソフィ　・・・それで？
アダム　シンシア嬢を消す
ソフィ　・・・本気で言ってるの？
アダム　もちろん。僕はいつだって本気だよ。彼女がいなくなれば、君も安心して、Ruby を出られるだろう？
ソフィ　でもそんなことしたら・・・
アダム　大丈夫。僕に任せて。君はいつも通りにしていてくれればいい。ね？
ソフィ　・・・
アダム　ソフィ
ソフィ　・・・この世界には、善悪ってあるでしょう？
アダム　うん
ソフィ　でもね、悪って、自分の正義を貫いた結果、そう言われてしまうことも多いと思うの。・・・だったらね、私、そうなりたい
アダム　どういうことだい？
ソフィ　悪と言われてしまっても、自分の気持ちに、もう嘘はつけないわ

☆M9　『My heart‥』アダム、ソフィ

ソフィ　覚悟を決めたの。私、羽ばたきたい。もっと広い世界に。あなたと一緒に、素敵な景色を見たい。・・・だからね、お願い
アダム　もちろんだよ。いつまでも、君と共に。
ソフィ　ありがとう
アダム　必ず君を連れ出して、幸せにするから。

アダム、去る。
シロ、来る。

シロ　ぶりっ子しやがって
ソフィ　・・・いたの
シロ　いましたよっと
ソフィ　あーあ、酔っ払ったなー
シロ　お前のこと、保安局の奴らが探ってるぞ
ソフィ　私を？
シロ　ま、ターゲットはあいつみたいだけど
ソフィ　アダムのこと？
シロ　そう
ソフィ　探られるようなことなんてしてないわよ

シロ　随分あの男にお熱なんだな
ソフィ　誰と付き合おうが勝手でしょ
シロ　・・・ま、俺は今の仕事も生活も、気に入ってるんで
ソフィ　・・・気に入ってる、ね。羨ましいわ
シロ　それだけ。じゃ

シロ、去る。

ソフィ　・・・私はただ、知りたいだけ。自分の可能性を。そのために私は、私のために。

ソフィ、去る。

《scene13　Ruby 楽屋》

アンナ、ユーリ、来る。

アンナ　ああ、緊張してきた・・・
ユーリ　まだ開店まで二時間もあるわよ
アンナ　昨日の夜から緊張してるのよ
ユーリ　大丈夫よ、あれだけ練習したじゃない
アンナ　血反吐を吐くくらいしたわ。カミラ先生厳しかった・・・
ユーリ　大丈夫よ。失敗しても笑顔でいればいいのよ
アンナ　成功するって言ってよ！
ユーリ　アンナ、自分を信じて。大丈夫だから、失敗しても
アンナ　もー！なんで言ってくれないのっ！

ロゼ、カミラ、来る。
営業準備をしている。

カミラ　お、新人。気合い十分だな
アンナ　はい！って言っても、一曲だけですけど
ユーリ　・・・その一曲が、大きな一歩なんじゃない
アンナ　・・・うん！そうよね！ふふ、楽しみ！
ロゼ　ああ、若さ・・・わかわいい・・・
カミラ　何それ
ロゼ　若くて可愛いの意。私たちにもそういう時期、あったよね
カミラ　あった・・・かな・・・？

ジョー、来る。

ジョー　失礼します・・・ここにもいない！
ロゼ　どしたの？
ジョー　オーナーがどこにもいないんですよ
カミラ　え、ああ、確かに、まだ来てないな
アンナ　というか、今日一日、見てないかも・・・
ジョー　シロと二人で探してるんですけど、どこにもいなくて・・・
ユーリ　今までこんなこと、なかったのに

シロ、来る。

シロ　だめだ、外にもいない
ジョー　どこ行ったんですかね・・・
ユーリ　・・・何かあったんじゃ
カミラ　・・・かもしれないな
アンナ　私たちも探そう！

アンナ、ユーリ、シンシアを探しにいく。

ロゼ　でも、開店まで二時間しかないよ。それまでに見つからなかったらどうしよう・・・
カミラ　いなくても、やり切るしかないだろ。お客さんは入るわけだし・・・
ロゼ　ううう・・・見つかりますように！

ロゼ、カミラ、シンシアを探しに行く。

シロ　あと探してないのは？
ジョー　地下の倉庫とオーナーの部屋です、どっちも鍵がかかってて・・・
シロ　地下倉庫の鍵は？
ジョー　オーナーの部屋の中ですね
シロ　マスターキーは？
ジョー　それもオーナーの部屋の中ですね
シロ　オーナーの部屋の鍵は？
ジョー　オーナーが持ってます
シロ　じゃあまずシンシアを探して、部屋を開けてもらって、地下倉庫の鍵をもらって、シンシアを探せばいいんだな！
ジョー　落ち着いてください、それもう解決してますよ！
シロ　・・・ああもう、どこにいるんだよ！シンシア！

ソフィ、来る。

ソフィ　どうしたの？
ジョー　大変なんです、オーナーがどこにもいないんですよ！ソフィさん、見てませんか？
ソフィ　今日はまだ会ってないわね
シロ　とりあえず、シンシアの部屋の扉、なんとかして開けられないかやってみるか
ジョー　そ、そうですね！なんとかぶち破りましょう！

シロ、ジョー、地下倉庫へ向かう。
ソフィ、それを横目で眺める。

ソフィ　・・・さて、と

ソフィ、去る。

《scene14　Ruby》

交互に出てきてシンシアを探す。返事がない。

シンシアの部屋の前。シロ、ジョー、来る。
ドアを鈍器でボコボコにしている。が、開かない。
ユーリ、ロゼ、カミラ、アンナ、集まってくる。

ロゼ　何？なんの音？
シロ　シンシア、許せ。緊急事態だからよっ！
ジョー　ちょっと待って、くださ、い、力が・・・
カミラ　代われ

カミラ、力いっぱい鈍器を振り抜く。開く。

カミラ　開いた！
ジョー　うん、ドアじゃなくて穴が空きましたね
ユーリ　オーナー？いますか？
アンナ　・・・返事はなし

みんな、部屋に入る。

カミラ　シンシアさーん？
ロゼ　オーナー？

シロ　　鍵は？
ジョー　　ありました！

ジョー、鍵を持ってくる。

シロ　　よし、地下倉庫に行くぞ！

全員、去る。

Ruby 玄関。ソフィ、来る。
Close 札をかける。

ソフィ　　・・・はい？ああ、すみません、今日ちょっと急遽休みになっちゃって。・・・
はい。またいらして。ごめんなさいね

ヴィクター、ソゥ、ルーア、来る。

ヴィクター　　・・・休み？
ソフィ　　ええ、そうなんです。トラブルがあって。
ヴィクター　　どんな？
ソフィ　　ごめんなさい、部外者の方にはお伝えできないの
ヴィクター　　僕はここの関係者ですよ
ソフィ　　はい？いや、あなたのこと、見たこともありませんけど
ヴィクター　　そうでしょうね。あなたは知らないでしょうね
ソフィ　　何を？
ヴィクター　　あとでシンシアかユーリにでも聞いてください。失礼

ヴィクター、ソフィを押し除け中に入る。

ソフィ　　ちょ、ちょっと！

ソフィ、慌ててヴィクターを追いかける。

ルーア　　ちょ、ちょっとヴィクター様！？
ソゥ　　どういうことなんだ！？

ソゥ、ルーア、追って中に入る。

地下倉庫の扉前。
シロ、アンナ、ユーリ、ジョー、ロゼ、カミラ、来る。

シロ、鍵を開けるが、押せない。

シロ　なんだ？鍵は開いてるのにこれ以上開かねえ
ジョー　多分、扉の裏から色々置いたんだと思います
シロ　なるほどな
ロゼ　・・・ってことは、中に誰かいるってこと？
ユーリ　・・・シンシア！シンシア！返事をして！

静寂。

カミラ　ちくしょう、どうしろってんだよ・・・
アンナ　オーナー！いるんですか！オーナー！

静寂。
ヴィクター、来る。

ヴィクター　なるほど、トラブルとはこれですか
ユーリ　ヴィクター！
ロゼ　どうして？
ヴィクター　ソフィさんが臨時休業札を表に出してたので聞いてみたら、トラブルだと仰っていたので
シロ　多分、この奥にシンシアがいるんだよ。でも、裏に色々置いてあるみたいで開かねえんだ
ヴィクター　隙間はありますか？
ジョー　え？ええ、多少はありますけど・・・
ヴィクター　・・・ちょっと離れていてもらっていいですか？

みんな、離れる。
ヴィクター、隙間に何かを捩じ込み、火をつける。
爆発音。扉は粉々。

アンナ　な、なんですかそれ・・・
ヴィクター　これで進めますね。行きましょう
ジョー　ああ、びっくりした・・・
シロ　ほら、行くぞ！

みんな、扉の先に進む。
一旦暗転挟む？
明転。
ぐったりしているシンシア。その近くにアダム。

みんな、来る。

ユーリ　シンシア！
カミラ　・・・と、アダム？
アダム　見つかっちゃったか。残念
ヴィクター　彼女に何をした！？
アダム　ああ、大丈夫だよ、まだ生きてるから
アンナ　あなたが、こんなことしたんですか？
ジョー　酷いです！信じてたのに！
アダム　気軽に人を信じない方がいいよ。君は優秀だけど、そこにおいてはまだ未熟なようだね
アンナ　どうして、こんなこと
アダム　愛する人へのプレゼントだよ
シロ　プレゼント？
アダム　そう。ソフィへのプレゼント。彼女は、こんな小さなショーパブで終わるような小さな女じゃないんだ。もっともっと大きな世界へ羽ばたける、僕の希望なんだよ。でも、彼女はこの女に恩があるらしくてね。なかなかイエスと言ってくれなかった。だったら、この女がいなくなれば、ソフィがここにいる意味もなくなる。そうだろう？そうすれば、彼女はもっと大きな舞台に立つことができるし、僕とも一緒になれる。僕と一緒にいることも、彼女が願っている幸せだからね

カミラ　はあ？お前はバカなのか？
ロゼ　キモいね、ストーカーの思考だ！
アダム　うるさい！彼女だって、覚悟を決めてくれたんだ。こんな所捨てて、もっと素敵な景色を見るってね

シロ　・・・だから俺にあんな事聞いてきたのか・・・
アダム　ソフィは素晴らしい女性だ。今までの女たちは、皆ちょっと良い顔をしてやればイチコロだった。でも、ソフィは違った。彼女はまるで、凛と咲く胡蝶蘭のような女性だ。僕は彼女の全てに惚れたんだ。だから、彼女の望むことは全て、叶えてあげると誓ったんだ

ヴィクター　ではあなたたちが裏でやりとりしていた金はなんだったんですか。彼女にも貢がせていたのでは？

アダム　貢がせる？とんでもない。例え懇願されても、ソフィには一銭も出させないよ。僕が彼女に渡していたんだよ。開業資金をね

アンナ　開業資金？
アダム　そう。大通りに、新しくショーパブを開業する予定なんだ。ここよりも立地もいいし、客も呼びやすいだろう。それに何より広いし、振付も曲もいいのを用意してある

ジョー　その開業資金はどこから・・・

アダム　君が知る必要はないよ。ああそうだ、どうせここはオーナー不在で潰れるだろうし、君たち来るかい？好条件で採用するよ

ユーリ　・・・お断りよ

アダム　ああ、そう。残念。じゃあ、皆殺しだ

ロゼ　やめて！

アダム　やめないよ。ソフィとの夢がもうすぐ叶うんだ！

ルーア　ちょっと待ったー！

ソゥ、ルーア、来る。

アダム　・・・なんだ？

ソゥ　その夢は、一生叶いません。残念ですが

アダム　は？

ルーア　えー・・・ソフィさんは・・・逃げました！

みんな　ええ？

ソゥ　ルーアと私でソフィさんを追いかけていたんですけど、急に方向転換して逃げ出して・・・いかんせん、館内の通路が複雑で・・・はい・・・

ヴィクター　取り逃したんですか？

ソゥ　まあ、結果的に、そうなりますね・・・

ルーア　すみまめん☆

アダム　そ、そんなはずは・・・

ソゥ　あ、あと、こんな手紙が玄関に

アンナ　手紙？

ソゥ　読み上げますね。えー・・・

ソフィ、後ろに出てくる。

ソゥ、読み上げてる感じで。

ソフィ　アダムへ。ごめんね！あなたの気持ちは、ちゃんと受け取ったから、有意義に使わせてもらうわね！それじゃあ、お元気で！

ソフィ、去る。

ソゥ　・・・だ、そうです

アダム　そ、そんな・・・

シロ　気軽に人を信じない方が良かったのは、お前の方だったな

アダム、へたり込む。

ソゥ、ルーア、アダムを確保する。

ユーリ、ロゼ、カミラ、アンナ、ジョー、シロ、シンシアを囲む。

ユーリ　シンシア！
シンシア　・・・うーん・・・あら・・・？
ロゼ　よかった・・・！
カミラ　痛いところとかないですか？
シンシア　私、何でこんなところに・・・
シロ　アダムに殺される所だったんだよ
シンシア　ええ？そうなの？
ジョー　でも、ヴィクターさんが助けてくれたんです。・・・倉庫のドアを破壊して
シンシア　ヴィクター・・・
ヴィクター　・・・
シンシア　・・・え？破壊？
アンナ　うん、破壊。爆薬で
シンシア　・・・ちょっとヴィクター！まだ爆薬なんて持ち歩いてるの！いい大人が何してるのよ！修理代いくらすると思ってるの！大人なんだから自分で出してもらうからね
ヴィクター　それで姉さんの命が助かったんですから文句言わないでくださいよ！
シンシア　大体あんたはいつもそう！後先考えないで行動するのやめなさいっていつも言ってるわよね！
ロゼ　考えた結果ですよ！
ヴィクター　・・・ん？今なんて？
ロゼ　え？考えた結果ですよって
ヴィクター　違うその前
カミラ　え？それで姉さんの命が助かった、って言いましたけど
シンシア　・・・ねえ、さん・・・？
シンシア　ああ、こいつ、弟なのよね
ユーリ以外　え、えええええええ！！！！
ルーア　て、てっきり彼女かと・・・
ヴィクター　彼女？
ソゥ　はい、シンシアさんか、ユーリさんが、彼女なのかと・・・
ユーリ　私？やめてよ気持ち悪い
ルーア　親しげだったんで・・・
ユーリ　違うわよ。私もヴィクターもここで育ったから、知ってるだけ
アンナ　何で教えてくれなかったの！
ユーリ　聞かれなかったから
ロゼ　聞いたよ私！
ユーリ　答える前に決めつけたのはそっちでしょ！
ジョー　ま、まあ、無事解決ということで・・・
ソゥ　ほ、ほら！立て！

ソゥ、ルーア、アダムを連れて行く。
爽やかな曲。ゆっくり暗転。

《scene15　シンシアの部屋》
シンシア、座っている。
ノックの音。

シンシア　　どうぞ

ジョー、シロ、入ってくる。

ジョー　　修理の見積もり出ましたよ
シンシア　・・・即、あいつに送って
ジョー　　分かりました
シンシア　ああ、ドア修理のために一週間も休業なんて、どうしたらいいの
ジョー　　太客も消えましたしね
シンシア　本当よ！もう！
シロ　　まあ、でも、良かったじゃん。木っ端微塵にならなかったんだから
シンシア　・・・それはそうね。まあでも、この部屋のドアは大穴開いてたけどね！
シロ　　仕方ないだろ緊急事態だったんだから！まあ、穴開けたのはカミラだけど
シンシア　男二人がかりでも穴、空かなかったんだってね（クスクス）
ジョー　　僕たちはか弱いんです
シンシア　・・・二人とも、ありがとうね
ジョー　　いえいえ、オーナーがいなくなったら困るのは、僕たちも一緒ですから
シロ　　そうなんだよな。俺たち、勤務態度悪いし、他じゃ雇ってもらえないし
ジョー　　それはあなただけです。ていうか自覚あったんですね！？
シンシア　まあ、休みになっちゃったものは仕方ない。色々組み直さないといけなくな
っちゃったし・・・あ！そもそも女の子いなくなっちゃったじゃない！どう
するのこの短期間で揃えられるの！？ああ！とりあえずシロ！５人くらい
ナンパしてきなさい
シロ　　そんないないだろ

カミラ、入ってくる

カミラ　　オーナー、これ
シンシア　これは？
カミラ　　ダンサー応募。超、来てますよ
シンシア　何で突然？

ロゼ、入ってくる。

ロゼ　アダムが逮捕されて、色んなお店がどんどん潰れてるみたい。そっちから流れてきてるんじゃない？

カミラ　色々ヤバいことしてたんだろうな、裏で

シロ　おー、怖い怖い

ロゼ　私たちには関係ないけどね～

カミラ　と、いうわけで、休業期間はみっちり面接とレッスンが詰まってます！

シンシア　助かった！女の子二人で営業しなきゃいけなくなるところだった・・・

ロゼ　この子とか良さそうじゃない？

カミラ　こっちの子もいいぞ

シンシア　あ、いいねどっちも。・・・でも結局は、人柄だからね

ジョー　本当に。

カミラ　ジョーはどんな子がいいんだ？

ジョー　僕に優しくしてくれる人がいいです

ロゼ　それは難しい希望だなあ

ジョー　何でですか！

シロ　・・・じゃあ俺、スカウトしなくていい？

シンシア　うん、これだけ候補がいればいいわよ

シロ　よっしゃ。寝よ

ジョー　ちょっと！

シロ、去る。ジョー、それを追いかけて去る。

シンシア　・・・平和が一番、ね

カミラ　ほんとですね

ロゼ　・・・ダメだ、多すぎて目が死ぬ

シンシア　お茶でもしながらじっくり見ましょうか

ロゼ　賛成！

カミラ　あ、そうだ、ケーキありますよ

シンシア　いいじゃない

シンシア、ロゼ、カミラ、ケーキの話をしながら、去る。

ユーリの部屋。荷造り中。

ノックの音。

アンナ　ユーリ、入ってもいい？

ユーリ　どうぞ

アンナ　・・・準備できた？

ユーリ　もう少し

アンナ　もう！さっきからずっともう少しもう少しって！1時間も経ってるんだけど！

ユーリ　ごめんごめん

アンナ　・・・本当によかったの？

ユーリ　・・・何が

アンナ　その、Rubyを出る、って

ユーリ　いいの。私は、もっと広い世界を見るべきだって、アンナが教えてくれたんじゃない

アンナ　それは、そうだけど

ユーリ　それに、これからは、自分に素直になるって決めたから。だから、まずは、自分のやりたいこと、見つけてみようかなって

アンナ　・・・だからって、私についてきてって頼まなくてもいいじゃない！

ユーリ　それも自分に素直になった結果なんだけど

アンナ　・・・そう言われると、ニコニコしちゃう！

ユーリ　ニヤニヤの間違いじゃない

アンナ　酷い！

ユーリ　結局、修繕工事でしばらく休業、しかもアンナはまだショーにも出られてないものね

アンナ　まだ何もしてないのに卒業なんて・・・ううう

ユーリ　でも。断ってもいいわよって言ったじゃない。輝くトップスターになりたかったんでしょ

アンナ　だって、ユーリが綺麗な景色を見て、美味しいご飯を食べている時に、私はタンパク質まみれの食事と腹筋なんて嫌だもの

ユーリ　旅先でその食事が恋しくなったりしてもう！

アンナ　・・・でも、いつでも帰ってきていいよって、シンシアも言ってくれたしね

ユーリ　あーあ、私もここが実家だったらよかったのに！

アンナ　シンシアはきっと、そう思っていいわよって言うわ

ユーリ　・・・そうね

アンナ　二人で、窓の外を眺める。

ユーリ　あー！お日様サイコー！今日は絶好の旅立ち日和ね！

アンナ　・・・きっと、私たち、いつだって、どこでだって、輝けるわ

ユーリ　・・・もちろん！

☆M10『Bon Voyage』全員

～end～